

# 山形県民教連通信

Contents

<http://www.asahi-net.or.jp/~gy6e-kjm/>

2022.4.9 No.74

巻頭言「憲法9条の精神を世界に広げていこう！」... 1

《特集》2022冬の学習会  
講演概要・講演を聴いて... 2

分科会（社会）（ことば作文）... 4（算数・数学）... 5  
（生活指導）（特別支援）... 6

参加者の感想... 7

東北民教連(協)代表者会... 8

街角の平和論「ゴジラの変身を考える」... 10

随想「逮捕と選挙に揺れる離島」... 12

山形県民間教育研究団体連絡協議会 通信  
 <発行人> 山形県民教連事務局  
 〒990-0044 山形市木の実町12-37  
 県教組山形地区支部内  
 TEL/FAX 023-631-2112/2126  
 E-mail yamagata@yamagata-kenkyousei.gr.jp  
 <編集人> 鬼島 悦雄 kijima@email.ne.jp

## 巻頭言



平和は儚いもの・・・  
 だから、  
 守るためには  
 不断の努力が必要である

## 憲法9条の精神を 世界に広げていこう！

山形県民教連会長 設楽 隆雄

TVでは、砲弾やミサイルが飛びかい、破壊されるウクライナの映像が常に流れています。そして逃げまどうウクライナの人たちの姿も。

信じられない光景です。21世紀において戦争が起こるとは。

この戦争に関わっている人々もつい最近までは、家族や同僚、友人たちと食事をしたり、スポーツをしたり、学校に通ったりして、安心な普通の生活を送っていたのだと思います。それがあっという間に破壊され、命の危機にさらされているのです。

「平和」は、あっという間に踏みにじられるものなのだと痛感します。

ロシアの国家統制の動きは、日本の太平洋戦争の時と酷似していると感じます。

政治は政党がなくなり大政翼賛会に。戦いの理

由は、日本がアジアの国々を独立させるため。そして治安維持法を制定し思想・表現の自由を奪い、愛国教育を行い、戦争に反対するものは「非国民」として処罰する。今のロシアも全く同じ手法をとっています。

仮想敵国をつくり、情報を操作し不安をあおり、多様な意見を封じ込めていくという一連の流れを、私たちはこれまでの日本の政治で何度も見てきました。そして、日本の政治家はこの機に乗じて「敵基地攻撃能力」「核共有」を話題化しています。武力には武力で、核には核で対抗しようとしているのです。

とても危険な動きです。世界が破滅に行きつくかもしれない考え方です。

私は十数年前に伊藤千尋氏の講演を聞いたことがあります。『活憲の時代 コスタリカから9条へ』という演題でした。

コスタリカは、日本と同じで軍隊をもたず平和憲法をもち、周りの国々に「平和を輸出」しています。おかげで周りの国々の内戦が終了しました。そして、コスタリカも安心できるようになりました。教育の大切さを感じ、国家予算の30%を占めていた軍事費を教育に回し無償にしています。その当時では10人に1人が教員免許状を持っているということでした。では、国をどうやって守るかということ、それは外交の力です。ですから優れた政治家が出てノーベル平和賞を受賞しています。



やはり「憲法9条の精神」を広め、武力では平和はつくれないということを世界中に広めていくことが大事なのではないでしょうか。

私たちの日本国憲法は、前文で「日本国民は恒久の平和を念願し」「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」と謳っています。さらに第9条では、「国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては永久にこれを放棄する」と明記しています。

日本国憲法は、誰もが傷つかず平和に生存する国際社会をめざしているのです。ウクライナの人々もロシアの人々も傷つかず平和に過ごせる社会を。

私たちは、日本国憲法の精神を、子どもたちに、市民に、そして世界の人々へ伝えていくという気概をもって行動していきたいものです。

まずは、今回の戦争や日本国憲法について学級で話し合ってみましょう。ドイツのように、教師の考えを押しつけず、論争があるものは論争があると教え、一人一人に自分の考えをもたせましょう。

1月22日に開催された「2022冬の学習会」は

2年ぶりに対面で開催しました。参加者は40名です。内容は講演と5つの分科会です。講演は、「インクルーシブ授業で学級づくりという発想」という演題で全生研常任委員の関口武さんに語っていただきました。授業の中に学級づくりの手法を取り入れ、どの子ども生き生きと生活できて安心なクラスをつくっていく実践を語りながら、課題を抱えている子どもと集団のかかわり方や、集団づくりで気をつけなければならないポイントなどを伝えていただきました。

広い空間で、動きながら話す講師の姿をみて、また参加者の息遣いや表情を感じながら学習することができ、やはり対面はいいなあと思いました。

分科会では、若い先生方が多数参加していただき、悩んでいることを一緒に語り合う中で解決の見通しを見つけたり、新たな学びを得ることができたりしました。

若い先生方も学ぶ意欲をもっています。そういう先生方に民主的人格を育む私たちの運動を理解してもらい、一緒に歩いていく教師になってもらいたいと考えています。

これからも学べる魅力ある学習を創るために取り組んでいきます。

**<特集>**  
**学び充実、2022冬の学習会**  
 1月22日(土)13:30～17:00  
 山形ビッグウイング



### < 講演 >

「インクルーシブ授業で学級づくりという発想」

- 正解は一つ、そこに続く道も一つ ではありません! -

講師 関口武さん(全国生活指導研究協議会 全国常任委員)

### 講演概要

参加者は40名。県内もコロナ感染が拡大し、参加を予定した人の中にはやむを得ず断念した人もいたようだ。講師の関口先生は大学の講師をされているが、大学の講義もオンラインが多く、対面による講演も久しぶりとのことだった。

学級は教師を頂点にしたピラミッド構造になっており、学校的価値に適応・順応する子どもたちを包摂する一方で、学校過剰反応に苦しんだり発達の課題や家庭環境による問題を抱えたりしている子どもたちは排除されている。特にコロナ禍の状況では顕著になり、学級だけでなく学校職場の中でも同調圧力がかけられている。しかし、こういう状況だからこそ、「みんなで決めて、必ず守る」をめざし、「不利益には黙っていない」という、少数の要求や意見にも耳を傾ける学級集団づくりの原点が大事ではないか。

いくつかの実践事例を話されたが、「不登校の花ちゃん」の話が心に残った。母親は病弱で、父親が暴力を振るう家庭で育つ不登校の花ちゃん。関口先生は、母親と連絡を取り、毎日迎えに行くことにした。学級の子どもたちにも「花ちゃんを迎えに行ってもいい？」と訪ねると、子どもたちは、「いいよ。」と賛同して、「先生、いってらっしゃい。」と送り出してくれる。そして、子どもたちは花ちゃんが学校に来るのを迎えてくれる。

花ちゃんのお迎えと掃除の時間が重なってしまう問題について、学級みんなで話し合う。友だちを迎えに行くことは掃除よりも大切ということにまとまる。校長にも承諾してもらい、お迎えの人は掃除を免除する。弱い人の立場に立って、時には学校のきまりも変えていく。花ちゃんのために、社会の水産業の学習のまとめに競り大会をするなど、楽しい授業を仕組んで学校に行くのが楽しいと思うようにしていく。さまざまな取り組みを通して、花ちゃんは自分で登校できるまでになっていった。

関口先生の実践は、弱い子を守る視点で取り組まれていること、それを個別対応だけでなく、学級全体として捉え、みんなのものとして考えることである。どの学校でもさまざまな課題を抱えている子どもたちや、その家庭への対応で苦労しているが、個別対応に追われて学級全体の課題としてどう取り組んでいくかまでにはいかないことが多い。それが時には子どもたちの排除や分断につながるようになるのではないかと。関口先生は、最終的には、花ちゃんも含めて誰が担任でも任せられる学級にしていきたいということだった。

自分の学級づくりが、弱い子どもの立場に立ったものになっているか、振り返るきっかけになった。講演後、何人かの参加者から質問や感想が出された。参加された方の心にも響くものだったのではないだろうか。



### 講演を聴いて（参加者の感想文より）

今回、ご講演いただき、民主的な学級づくりを進めていくことがいかに大切であるかを理解することができました。

私自身、担任している学級でも不登校傾向の児童が2人ほどおり、別室を使つての登校などを行っています。なかなか他の児童との良好な関係性を築くことができず、クラスに入りたくないと訴えていることもしばしばです。

話をお聞きし、要求をよく聞きながら学級運営を進めていくことで、後の登校意欲につなげていきたいと考えられるようになりました。時間が必要になることをよく理解しながら、その子自身のみならず、周囲の子の受容的な姿勢も伸ばしていくことができるように声をかけていきます。

実践に基づく貴重なお話、ありがとうございました。今後の学級経営に生かし、子どもたちの生活に還元できるように努めてまいります。

（山形・小学校）



私も、学級の中に不登校傾向の子がいますが、関口先生がお話しされた「クラスが安定して楽しめる」ような環境づくりが改めて大切だということを学びました。

クラスが安定して楽しめるような日々の授業の工夫や学級経営をすれば、不登校傾向の子でも毎日来れるようになることを信じて、日々の教育活動を見直したいと思いました。

また、不登校傾向の子だけでなく、周りの子に対しても「ありがとう」の気持ちを忘れずに、日々感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思えます。

（東村山・小学校）

## 分科会

### 社会科学 分科会

今だからこそ取り  
組める社会科の授業  
づくりを考えよう！

参加者は4名。はじめに参加者の自己紹介と近況・地域報告など・・・。

新庄市議の佐藤さんは、憲法9条の護憲に奮闘しているが、最近の敵基地攻撃能力などの議論が沸騰しており、息子の通う中学の教師さえも、北朝鮮の強まる核・軍事化に「怖い・・・」と改憲を言っている。若い人たちの主権者意識も心配だと。

稲垣さんは退職して9年目、教え子たち(=教師)の改憲意識が心配。かつて若い世代であつた頃には、憲法や教育基本法の遵守意識が生活の周りにあつたが、今は違うようだ。

東海林さんは退職2年目で、小学校に再任用として勤務。今集会に、指導している若い教師6人が参加してくれた。最近ネットフリックスに加入し、見たい番組を楽しんでいる。北の恐怖のプロパガンダは、真実を知ることによって変わる。身近な暮らしの中の平和学習は大切。戦争する国への足音をもっと知る必要がある。

田口は、退職15年の後期高齢者、歴教協・地教研・民教連での日々、長らく平和教育での実践を累積してきた。授業にできる生徒たちへの問題提起と格闘(=議論)は楽しい。コロナ禍での子どもたちの「生き辛さ」の本音と「生の声」の引き出しは遠のいているが・・・。

世界史授業の実践レポート(田口 忠宣)

谷地高校2年間での記録で、既成の手作りだが、【穴埋め式】のプリント学習は、受験学習の通常パターンでは重苦しく歴史の本質が見えない、「面白くなければ世界史ではない!」と大きく視点を変えた。

教科書の基本となっている従来のヒーロー(有名な人物)による歴史から、隠れている民衆・農民・労働者を土台にした授業を試みた。歴史を下支えする民衆たちの記録や資料は皆無に等しいが、丁寧に教材を拾い集め、生徒たちに「問題提起」として【T・Tの世界史】を資料として提示した。2年目には更に加えて、平和や人権意識を軸にした【世界史通信】を配布し、歴史の真実を検証する「面白さ」を伝えた。授業の冒頭には、「10



分の平和学」と称して、そのプリントを活かして地域(=世界・日本)の時事問題や平和【命】の話題を使って生徒たちと議論した。

彼らの感想文には、習得している知識はまだまだ未熟ではあるが、裏の「真実の歴史」に向き合ってくれた。僅かではあるが、「その時、自分ならどうするか? 自分はどうか考えるか?・・・」という主権者意識の萌芽がみられたのはうれしい限り。

大学受験という厳しい関門があるので、いわゆる知識の羅列・暗記に戻らずに、「矛盾には必ず声を挙げる」・・・という“学び”を、それでも保持してほしいと願っている。いや、彼らの学びは、確かなものとして継続してゆく。教師たち・親たち・地域からの支援をいろいろな場面で続けたいのだ。

わずかな時間だったが、夏8月の「天童大会」についての「社会科分科会」の構想と取り組みについての「計画書」の提示をした。分科会のテーマやレポート発表者への今後の取り組みや参加体制・分科会3日間の日程など～時間不足であったが。

(田口 忠宣)



### ことば作文 分科会

今こそ子どもたちに、  
自分をみつめる  
作文指導を!

5名の参加、2本の実践レポート

佐竹 真由子さん(高畠中学校)

川合 高弘さん(米沢西部小学校)

佐竹実践レポート

佐竹さんの実践は、学校図書館運営を切り口に

生徒会の図書委員会、ボランティア委員会等とも連携し、生き生きとした活動を創り出している。コロナ禍にあって図書館での閲覧が制限される時期ではあったが、図書委員会の生徒たちの研修に裏付けられた活発な活動は、図書の貸し出し活動にとどまらず、個人的に調べたい事柄について図書館を利用する生徒にも対応できている。

そして、教科と図書館をつなぐ「共読」の授業の実践。1年国語教科書の発展的な学習として、図書館にある本「頭の打ちどころが悪かった熊の話（寓話）」の中から「りっぱな牡鹿」を読んで、描写に着目することで、牡鹿の心情に迫る話し合いをグループごとに行った。結果、豊かな読みができたことが、生徒たちの感想からうかがえる。日頃の授業での学び合いの学習の賜物だと思われる。

学校全体の言語環境をつくり・学び合いの環境をつくる素晴らしい実践である。



#### 川合実践レポート

川合さんの実践報告は、4月から担任した5年生の子どもたちに毎日日記を書かせることから始めて、作文指導に進んでいく過程の実践報告であった。

書くことに慣れていない子どもたちにとっては、題材の見つけ方や原稿用紙への表記の仕方など指導事項は山積みであったと思われるが、3学期現在では、特にテーマを設けなくとも、子どもたちが自分の生活の中で伝えたいこと、書きとめたいことを伸び伸びと書いているという報告であった。

その中で特に集団生活に課題を抱えている数名の子ども日記や作文を取り上げて、「作文指導でのメリット」、「今後目指していきたい姿」の報告は、一人一人に寄り添って子どもを育てるという点で学ぶところが多かった。

また、日記や作文に添えられた川合さんの赤ペ

ンは、子どもたちの今を受け止め認めてくれている。子どもたちはどれだけ励まされていることだろう。

若い教師の参加と素晴らしい実践報告で、活発な質疑討論が行われた。時間はあっという間に過ぎて、まとめられないままに終えてしまったが、参加者それぞれの次につながることを間違いなし。

(近野 享子)



## 算数数学 分科会

今、ワクワクする  
授業で、楽しくわ  
かる算数・数学を！

若い先生も入った分科会で、改めて基本に立ち返ったり、実践や指導のアイデアを聞くことができたり、盛り上がった話し合いになりました。

レポート「他人の禪で相撲を取ってみたら」

「意外性で引きつける

授業づくりと教具づくり」

「わくわくする算数の授業」

早坂 久佳

思いの外、数教協の実践が各教科書に入ってきている。また、ネットにも様々な実践が紹介され、意外と自由な発想をしているものもある。しかし、一番大切なその教材の概念は崩されていないのかを検討していく必要がある。

「速さ」を例にすると、「速さ」は現実世界にある量であり、目に見えるものである。指導要領の言うような「異種の2つの量の割合」ではなく、道のりと時間から創造される新しい量である。この重要な点を実感させるために、子どもの興味・関心を生かした実験で、実際のデータを取ることから始めたい。

レポート「教科書の問題点と

子どものつまずき」

山川 貴子

昨年度から使われている東京書籍の教科書では、随所にキャラクターが出てきては、読者を上手に誘導してくれている。指導要領の言う「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるよ



うになるか」は硬い言葉だが、呟きの中にその答えが入れ込んである。

そのような工夫(?)がこらされていても、内容や扱い方といった根本のところは従来どおりであるため、子どもたちのつまずきも繰り返されている。

話し合いから

授業中、理解が遅い子どもは、問題文の数値だけ見て困っている。でも、生活の中では「くん走るの速い」とつかめている。「そのことを数値で表すにはどうすればいいの?」と問うことで、生活と概念を結びつけていくことができる。

教えるべきことは、やはり教師が主体となって考え教える。教科書はあくまでも教材であるところらえる。(山川 貴子)



生活指導  
分科会

素晴らしい学級  
じまいをめざして!  
~学級づくりの悩みや  
質問に、セッキーが  
お答えします~

全体講演の関口先生も入っていただき、11名の参加だった。今回は、新採1年目の先生など若い先生や中学校の先生に参加していただくなど、新鮮な感じがした。

今回は、「素晴らしい学級じまいをめざして」というテーマで、実践分析ではなく、参加者から日常の学級づくりを通しての悩みや質問を出してもらい、関口先生や参加者みんなで話し合った。

参加された若い先生方から、学年を組んでいる担任の学級が落ち着かないので、どのように関わっ

ていくといいのか。学年主任から学級をきちんとさせるように指導を受け、自分としては子どもたちの多様性を認めてあげたいのだが、どうしたらよいのか。暴言を吐く女子への関わり方をどうしたらよいのか。など、さまざまな悩みを出していただいた。

ベテランの先生方や関口先生から、隣の学級担任と学級の様子を聞き、学級づくりや授業づくりについて一緒に話してみる。学級のルールについて、子どもたちと話し合いながら、問い直してみる。暴言の裏にあるものは何なのかを探りながら、この子と一緒にできる活動を考えてみる。・・・など、さまざまなアドバイスを出していただいた。

参加者の悩みが即解決とは行かなくても、今後の具体的な手立てを得ることができたのではない。困り感を持って参加された方が多く、たくさん発言があって分科会の時間を超えてしまうほどだった。コロナ禍の中、予想以上に参加していただいたので、今後のサークル活動にも繋げていきたい。(大場 理之)



特別支援  
分科会

インクルーシヴ  
授業って?

本集会とは別に、1月29日に大手門パルズ(オンライン同時開催)にておこなわれました。

大手門パルズの教組山形地区支部書記局とオンラインの同時開催で、特別支援分科会が行われました。参加者5名でしたが、参加した方が未組合員の若い先生を誘ってくださり、インクルーシヴ教育のことや学級経営について、和気あいあいとした雰囲気学ぶことができました。

今回は、支部書記長の後藤がファシリテーターとして「障がい」とは何か、子どもの気になる行動をどう捉えるか、などについて考えていきまし

た。参加した方からは、「また学びたい！」と感想をいただきました。今後も様々な形で学習会を開きたいと思います。

学んだ時の様子を一部紹介します。

右のイラストを見て  
ください。どんな所に  
「障がい」があると思  
いますか？



職場で近くの方と語  
り合ってみてはいかが  
でしょうか？「障がい」  
の捉えが様々あること  
に気づくことになると思  
います。とらえ方を大き  
く2つに分けて考えるこ  
とができます。

#### 障がいの「医学モデル」

(医療モデル, 個人モデルともいう)

障がいを個人の問題と捉え、病気、外傷等から生じる捉え。

#### 障がいの「社会モデル」

(環境モデルともいうことも)

障がいのある人を統合できない社会の問題として捉える。

さて、学校は、どちらのモデルで「障がい」を捉えているでしょう？そして、社会はどちらのモデルで「障がい」を捉えているでしょう？

それを知ることこそが「障がい理解」の入り口になると思います。

(後藤 美子)



## 2022冬の学習会 参加者の感想から

(天童・小学校)

実践に基づいた、たいへんためになる話を聞くことができました。質問の時間もいただけてよかったですと思います。分科会では、小グループの活動になったので、さらに深い話ことができました。

(山形・小学校)

分科会の話の中で、寄り添う大切さを改めて感じました。学校の先生方も、地域も、このコロナ禍で変化したように感じています。忙殺する先生、地域でつながれないおうちの方々、どう支えていけばいいか悩むところですが、がんばりたいと思います。

(山形・小学校)

深く多くの学びをありがとうございました。  
「誰一人取り残さない」学級を目指しても個が目向いてしまうと集団(全体)が見えなくなっていないかと、ふと振り返る機会をいただきました。分科会を通して、個と集団への目配り気配りのバランスが大切であることが整理されました。無意識にバランスを取っていたかもしれせんし、そうであったと願いたいですが、言葉で整理されることで意識的にバランスが取れるように努めたいと思いました。

特に印象的だったことは、「集団づくり □班づくり □リーダーづくり+□討議づくり」のお話で、担任1人で「誰一人取り残さない」学級づくりをするのではなく、リーダーづくりで少数の声を聞き取り、子どもたち自身が民主的で誰も取り残さない議論ができるようにするという視点です。

関口先生の、学級行事を仕組みで子どもたちの居場所を節々で作っていく実践は、私の学級づくりでも磨いて行きたいことなので、クラスを安定して楽しい空間にし、さらに学級づくりにおける提案活動に対して、子どもたち自ら問答を通して修正案を重ねていけるようにしたいと思いました。

まだまだ学びが足りません。また学習の機会を頂きたいです。

## 東北各県民教連・民教協代表者会から（報告）

事務局長 東海林 仁

はじめに

2月23日、当民教連がホストになり、各県代表者会（Zoomミーティング）が行われた。協議された主な内容をお伝えしたい。

各県のコロナ禍の被災が続く2回目の冬の学習会は、オンラインと対面を駆使しつつ状況に応じて6県全てで開催された。（1/8 秋田、岩手、福島）、（1/9 青森、宮城）、（1/22,29 山形）うち対面で行われた県が青森、秋田、山形の3県、オンラインと対面の併用で行われたのが岩手、宮城の2県、8日に全体会を行った福島県は、1/23, 29 及び 2/5,6,13,19,20,26と、期日を分科会毎に8日間に分散させての開催であった。

困難な状況下にあっても、子ども、学校、地域をとりまく状況を深く見つめ、どんな問題があり、私たちが何を取り組むべきか、真実を見出し、学び合おうとする東北の教師達の心強い「しぶとさ」「たくましさ」を感じることができた。

第69回東北民教研天童集会にかかわって

天童集会の「基調提案骨子」について設楽会長より提案があり、特に教育をめぐる状況と民教連運動の方向について「地域と学校のつながりや関係性の変化」「学習指導や生活指導の画一化と管理」「子どもと父母が抱える困難や息苦しさ」等について意見交換が行われた。

特別分科会のテーマは以下の5つを提案した。

震災復興と原発問題の現在と

子どものくらしを見つめる

コロナ禍で増した子ども、教職員の

息苦しさはどう向き合ってきたか

- いじめ自死、働き方、

ICTギガスクール構想などにかかわって -

地域と学校のかかわりを考える

- 学校統廃合や

学校運営協議会制度がもたらすもの -  
教員不足の解消と大幅増員、

新たな少人数学級実現運動をめざして  
北方教育の篝火を灯し続けて

- 鈴木輝男・不撓不屈の足跡 -

前回（第68回）の岩手花巻集会の担当県をもとに、各県に担当していただきたいテーマを打診した。今後5月の運営委員会まで、各県の検討結

果によってはテーマ数の増減もある。

山形は、に加え、本県の教育文化運動を牽引し、学校統廃合反対の巖川闘争を地域住民と共にたたかい、全国の少人数学級運動の先鞭をつけた「さんさんプラン」の道筋をつけた、故鈴木輝男さんの足跡を北方教育の視点から学び合うを担当すると表明した。

教科及び課題別分科会については、数年来参加組織が困難になっている「演劇と教育」の分科会を、「表現」というくりで他の分科会に統合するか、あるいは休止とするかの検討をすることや、各分科会の東北責任者は各県責任者と連絡を取り合い、運営計画（分科会テーマの設定、レポーターの依頼と組織等）を確実に提出していただくことなどを確認した。（山形責任者が東北責任者となっている分科会が多くあります。天童集会実行委員会研究部長の大場理之さんへ忘れずにご提出ください。）

各県から天童集会への宿泊参加目標と通い参加目標を申告いただき、6県合わせて宿泊参加目標を105名、通い参加目標の130名を合わせて235名の目標で取り組むことを申し合わせた。うち、山形の参加目標は宿泊30名、通い60名の90名とした。実践に触れる機会を通して仲間を増やすことにつながる。一人でも多くの知人に声をかけ、今夏8月7日から9日の天童集会に誘っていただきたい。

東北各県代表者会は、東北民教研集会開催にかかわる分担金（各県15,000円）を拠出し合うことを決めた。今後の東北民教研開催にあたっての規約のようなものを整備してはどうかという意見が出され、次回5月の天童集会運営委員会まで山形が原案を考えることになった。





お知らせ

第69回東北民教研天童集会運営委員会を開催します。分科会東北責任者並びに山形責任者、県民教連事務局員、実行委員のみなさんは万障お繰り合わせの上お集まりください。

と き 2022年5月8日(日曜日)  
午後1時30分～午後4時30分

ところ 山形市男女共同参画センター  
ファアラ5階 視聴覚室・研修室2

感染症警戒レベルが上昇し、公共施設の使用に制限が出た場合はオンラインによる開催に切り替えます。その際は再度ご案内します。当民教連ホームページまたはフェイスブックでもご確認ください。(どちらも「山形県民教連」で検索できます。)

第69回天童集会分科会東北責任者・山形責任者一覧(敬称略)

	分科会	担当者
1	国語と教育	千葉 政典 佐賀井 伸
2	作文と教育	白木 次男 近野 享子
3	外国語と教育	桑原 孝
4	社会科と教育	田口 忠宣
5	算数・数学と教育	早坂 久佳
6	理科と教育	鬼島 悦雄
7	音楽と教育	高橋 淑子 高橋 峰
8	美術と教育	鈴木 昇 田中 洋子
9	技術と教育	高橋 克典
10	身体と教育	鎌田 克信 大宮多恵子
11	生活指導と教育	大場 理之
12	高校生と教育	庄司 吉郎
13	障がいのある子と教育	後藤 美子
14	演劇と教育	古川 晃
15	幼年と教育	長岡 滋子
16	学校と教育	橋本 とも 堀野 広一
17	国民教育運動	賀屋 義郎 櫻井 啓志
18	生活科・総合と教育	及川 弘子 東海林 仁
19	不登校ひきこもりと教育	酒井枝里子

第69回東北民教研天童集会の成功をめざして

2022年8月8日(月)  
**内田 樹さん来県**  
思想家 武道家  
神戸女学院大学名誉教授(仏蘭西哲学)

第69回東北民教研天童集会

2022年8月7日(日)～9日(火)  
メイン会場 山形県天童市 天童温泉 天童ホテル

19の教科・課題別分科会(入門講座やワークショップもあり)  
4つの特別分科会  
こだわりの地元企画

主催:東北地区民間教育研究団体連絡協議会  
主管:山形県民間教育研究団体連絡協議会

期日 2022年8月7日(日)～9日(火)

会場 山形県天童温泉  
美味求真の宿**天童ホテル**(予約済)  
山形県天童市鎌田本町2-1-3  
TEL 023-654-2211  
天童市立天童中部小学校(借用申請予定)  
天童市老野森2-6-4  
TEL 023-654-2301

参加費 3,000円(教職員・教職員OB)  
…2日以上参加  
2,000円(保育士・学生・父母一般)  
…2日以上参加  
1,500円(1日のみ)

宿泊費  
一泊二日 12,000円  
二泊三日 24,000円  
(消費税,入湯税込)

	12:00	13:00	14:00	17:00	19:00	21:00
7日(日)	10:30集合 準備作業(実行委員)	受付	開会行事	分科会I (講座・WS・模擬授業など)	夕食	地元企画行事 (フリー) 天童集会運営委員会
8日(月)	9:00	12:30	13:30	15:30	17:30	18:30
	分科会II	昼食	講演会	特別分科会	休憩	夕食・全体交流会 (次回開催引継)
9日(火)	9:00	11:30	12:00			
	分科会III (講座・WS・模擬授業など)	会場片付 整理点検	後解散			

《 8月7日～9日の集会日程 》

## 街角の平和論 『ゴジラの変身を考える』



田口 忠宣

(歴教協)

日米で人気の巨大怪獣ゴジラは、核の恐怖と共に「ヒバクシャ」として長く登場してきた。ヒロシマ・ナガサキの原爆投下から76年、今後の新作は核とは無縁の姿になるのだろうか。「戦争の記憶の風化」の成せる技なのか。

被爆76年の世界～と、メディアは「世界が、核の恐怖の破局か、または安全・共生の未来か…の分岐点にある」と言う。米中口間の覇権争いが、世界各地で民族紛争を巻き込みながら、その不安・対立を深めている。かつて抑止力の高揚を狙い、軍縮もあったが、今やむしろ軍拡が強化され、「核の傘」の信頼が弱まっているという。「核兵器なき世界」は、被爆者たちの願い、世界共通の願いでもある。

再び、あの惨劇を繰り返さないために、「過去の記憶」を今に止め、被爆者の苦悩を直視すべきである。いずれ被爆者のいない時代になる。核兵器の誤作動も含めて、ひとたび核戦争が起これば、地球上での放射線の飛散は、「核の冬」～人類の滅亡が必至だ。私たち市民は、この危機的な事態にどれほどの「現状把握」が出来ているだろうか。

韓国被爆者で、今釜山の市場で働く金文成（キムムンソン）さん（83歳）は、広島で被爆し熱線を浴びた。皮膚がんも併発し、その治療を、最近になって長崎の病院で「渡日治療」を受けた。「私は広島で被爆し、長崎で命を救われた」と語る。半世紀近くも治療を受けられなかったのは、日本政府の「韓国や北米などの被爆者を援護法の枠外に…」置いていたため。いまやっと“日韓の苦しみが分かち合える”と。「グローバル・ヒバクシャ」の現実が浮き彫りに。

核の恐怖を論ずるときに、私がいつも軸にしていることがある。それは、市民科学者の「高木仁三郎」氏である。彼は、「原子力神話からの解放」という著書の中で、核（原子力）の基礎を教えてくださいからである。少しだけ紹介する。

彼は、1999年の東海村のJCOでの「臨界事故」への告発から、東電などのデータの隠ぺい・改ざんなどから、その不条理を告発し大事故への予測をした。フクシマの原発事故の情報隠匿も、その延長上にある。

「人類は“パンドラの箱”をあけてしまった…」と。JCOの事故は1mgのウランの起こした被害で、異質な世界。核の世界では、「原子核の安定性を崩し、不安定化することで膨大なエネルギーを抽出する」と言う。放射能は死の灰、その物質は、アルファ線やガンマー線など、100万倍のエネルギーで、人体の遺伝子配列を変え、重大な影響を与えるもの。イタリアのE・フェルミは、「原子炉の父」と言われるが、大量の致死量での危険性を指摘していた。原子力は「消せない火」をつくる技術だ…と、明快な論理はとても学びがいがある。

「核廃絶への道～世界の危機に歩みを止めない～」と、国際平和シンポジウムが8月1日に長崎で行われた。U・ペリー氏（アメリカ）は、米口の「第2の冷戦」に中国を加えた核保有国の高度警戒態勢の強化は想像以上という。大半の人々はこれを理解していない。地球上で実施された核実験は、じつに2,000回を超える。誤作動が偶発的に行われてもおかしくはない昨今である。

「地球滅亡までは、あと100秒！！」と。米科学者たちは、核による大惨事が起きる可能性を予測し、【終末時計】に反映してきた。今年には史上最悪の「100秒前」という。ペリー氏らの新著「核のボタン」には、「核リスク低減のための10の提言」を出している。その中の「米大統領の核兵器発射の専権を終わらせ、『フットボール（＝ブリーフケース）』を退役させよ。」と。

「は、「市民運動のテーマに核兵器を取り込め。」・・・とある。ロシアのM・ゴルバチョフ氏も「終末時計は破滅点に近づいた。私たちは、核兵器の削減と最終的全廃に向けて先頭に立ち、全世界的な取り組みを展開せよ。」と叫んだ。

8/6の山形県内、原爆追悼の行事等が山形市、米沢市、天童市などで開かれた。天童市での「原爆展」では、AIの技術でカラー化した30点の写真の展示。アズ七日町では、「いのちの光展」（丸木夫妻）、「黒い雨の被爆者たちの街」の墨絵を展示した。私たち市民一人一人の「見て・知り・行動する」の起点になるものだ。

再び、ゴジラに登場を願いたい。「令和の怪獣」としてのゴジラは、初作である第1作の「原点回帰」を有した「ヒバクシャ」としての、超恐ろしい核満載の怪獣として描いて欲しい。新自由主義で真実の歴史を「無」にしてしまうような、今日的な政治的・軍事的なプロパガンダの衣を取り払っての「新怪獣」として。

宇宙からのエイリアン怪獣でもいい。AI怪獣もありだ。ゴジラの市民社会の破壊行為は決して許されないけれど、一步ゆずって、世界的な破滅を招く核の「全廃」に向けて、漸進的な取り組みをしている多くの国の人たちにも勇気を与える、そんなゴジラなら大歓迎である。被爆の恐怖と核の廃絶は、すでにヒロシマ・ナガサキから世界に発信したはずである。それは「被害と加害」の二面からである。未だに、核禁条約に加盟しない政府・新岸田政権の愚かさをさらに明らかにし、「その運動」の広がりにも私も参加したい。

(03.10.17~田口記)

## 田口 忠宣さん発行の 「社会科便り」

\*今回は参考までに、1昨年(=前回)花巻集会での報告等を「論議」から抜粋しました。大橋さん(=岩手)のまとめた課題も一部ですが参考になるかと思えます。

(1) 分科会「社会科と教育」

1. 分科会テーマ  
～震災8年に地域から授業を考える～

2. 参加者  
青森(3) 秋田(1) 岩手(4) 山形(2)  
福島(1) 計11名

3. 報告一覧 (発表順)

(1) Mさんの模擬授業から「労働者の権利と法律」 (岩手:沖真 一)

(2) 大学の講義から  
～2019年前期「社会科教育(中)」  
講義期間について～ (岩手:はるまき)

(3) 道原康雄さんの実践から学ぶ (ピデオ視聴) (秋田:佐藤)

(4) アメリカ合衆国イダホ州で習得授業を見る (福島:田母神 一)

(5) 青森県の民生的教育研究の現状 (青森:中田 学)

(6) 地域報告と生徒を揺るがせる現代社会の課題とは (山形:田口忠宣)

(7) 地域で読む歴史の見直しと授業を考える (岩手:大橋崇昭)

② 議題

分科会参加人数は、一番参加者が多かった時間帯で11名であった。これは前年に比べ参加者が少なかったのではないかと、理由はいろいろあるが、まず副委員の岩手の参加者が少なかった。これまでは、副委員の年はもっと多くの仲間が参加していたので残念であった。

参加者構成は、教員0名が中心であったが、若い女教師が参加してくれたことは実に嬉しいことであった。各県とも若い教師へ働きかけ、反教師の新しい仲間を増やす活動を追求しようという共通意識を改めて確認した。

民間教育団体の新しい現実が伺っているが、今後のレポートが故、内容とも充実していたのは事実であり、これをいかに各県に伝達していきたいものである。

(文責:岩手 大橋崇昭)

\*「山形からの地域報告」①として、会場の天童周辺の「遊楽案内」を一部ですが紹介します。車で30分程度の「戦争と平和」に関する史跡等です。(なお出典は、山形県教育協会の「平和と人権」山形ガイド(2015年)です。)

今回は3日目の「地域巡視(=フィールドワーク)」は予定しておりません。

① 越王山地下兵器工場跡 (天童市赤松)

天童市のど真ん中、越王山に、朝鮮人を強制連行して掘らせた地下兵器工場の構穴が残っています。構穴は第二次世界大戦末期、東京空襲で仙台市内に移された陸軍第一造兵廠の再建現場として掘られ、敗戦で未完に終わり放棄されたものです。

この工事に従事するため、1945(昭和20)年3月から数回にわたって朝鮮人労働者が赤松地区に到着。同年5月には50世帯、250人ほどになりました。

所在地: 岩手県 天童市赤松(〒995) 付近の越王山南麓

\*今回の「社会科と教育」分科会のテーマは「コロナ禍での“あたらしい社会科教育”を創る」としました。その理由も若干提示します。ご意見を是非、拝受したいと思います。提案の文は次回に紹介します。

\*なお、「社会科便り」の第2号は、6月～7月頃の発行予定です。もし地域からの原稿などのコピーを送付頂けたら幸いです。(04.03.03 文責・田口)

2.

(04.03.03)

『天童集会に是非、参加を!』(=「社会科便り」)

(「第1号」・・・山形県民教連・社会科と教育分科会発行)

\*皆さんこんにちは! 弥生の候となりました。先日の豪雪は大変でした。コロナの第6波と重なり、私たち高齢者(?)にはこの冬、厳しく試練の日々が続いています。お変わりありませんか? 先々月(=1月)に、民教連の「山形・天童集会」についての「参加とレポート報告等」のお願いを申し上げましたが、今日は「第2報」としてお送りさせていただきました。今回はそのお題と案内・広報を兼ねて、「社会科分科会便り・第1号」として、貴県との身近な仲間に、「声掛け」して、配布頂ければ幸いです。是非、ご参加いただき2年ぶりの、東北各地での「地域からの生の声と平和教育実践等」を交流できればと願っています。

\*「天童大会の詳細」は後日に譲りますが、8月7～9日の3日間、講演は「自由の危機」(集英社・2021年)でご承認の内田樹さんで、別図のような日程です。例年の通り、特別分科会もありますが、「社会科と教育」の分科会は、3日間に、計9時間あります。会場の天童ホテルは、将棋の街「天童温泉」にあり、近辺の有名な「王将戦」も観られると聞いています。昼夏の時期ではありませんが、「山形花笠まつり」の真っ最中で、そのお蔭でも熱く感じることかと思えます。

東北仲間での、お互いの実践交流で花を咲かせましょう!!!

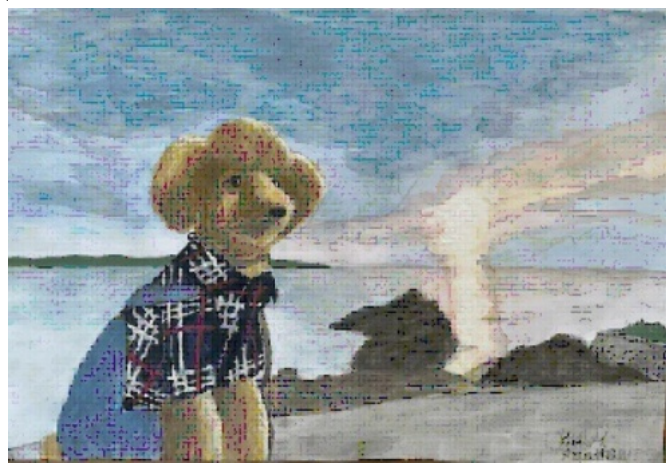
・日程

8/7(日)		10:30集合	受付	開会式	分科会1 (3H)	夕食	地元分科会 (7時～)	天童会館評議会
9:00		12:30	13:30	14:00	15:30	17:30	18:30	21:00
8/8(月)		分科会2 (3.5H)	昼食	講演会	特別分科会	休憩	夕食・全体交流会 (6時開始)	
9:00		12:00	13:00	14:00	15:30	17:30	18:30	21:00
8/9(火)		分科会3	会場閉会					
9:00		12:00	13:00	14:00	15:30	17:30	18:30	21:00

委員/共筆多数  
「コロナの再来」文藝春秋2020.11.7  
「学問の自由が危ないー日本学問問題の発展」晶文社2021.1.29  
「自由の危機ー息苦しい正義ー」集英社新書2021.6.22  
「新世界秩序と日本の未来ー美中の展開でどう生きるか」集英社新書2021.7.16  
「武漢論ーこれからの心構え」河出書房新社 2021.7.22  
「自民党が壊れた」宝島新書2021.10.8  
「コロナ後の世界」文藝春秋2021.10.20  
「戦後民主主義に僕からー原」JTB新書2021.11.6

21世紀をひらく教育のついで(全教・教組共闘 教育研究全国集会2020)全体講演者

1.



( 沖縄、離島の風景 早坂 久佳画 )



～ 随想 ～

沖縄で暮らす

逮捕と選挙に揺れる離島

卓坂 久佳 (山形)

今年、石垣島に2月8日より1ヶ月滞在することにした。幸運にも3回目の接種を終え、山形、沖縄共に蔓延防止措置のコロナ禍ではあったが、21日には共に解除、場所を変えての自炊生活をしながら観光というスタイルは今回も変えていない。暖かい気候の中で10日過ごせばひどいあかぎれも完治するのにはいつも驚く。

石垣島は15年ぶりだが、直通便もできて、那覇空港に寄らずに来られるようになった。着くと、石垣の町中は石垣市長選挙で、街宣で手を振ってくる。「ウキウキ島石垣」「ゴルフリゾート誘致」というのぼり旗のもろだしゼニコンの自民現市長と、「ミサイル基地有無の住民投票を」「市民の声を聞く市長にチェンジ」というのぼり旗の保革相乗り候補者との一騎打ちという様相だ。

そんな中、石垣市に本庁舎を置いている竹富町の現職町長が離島を結ぶ水道管の更新工事の官製談合で2月14日に逮捕された。現職逮捕で全国ニュースになったのでご存知の方も多いだろうが、昨年5月に逮捕された宮古島の前市長は自衛隊配備をめぐる土地提供での贈賄で、2月22日裁判所において懲役3年の実刑判決が出ている。前市長の逮捕・判決なので全国ニュースにはならなかったようだ。

宮古は石垣よりミサイル基地の準備がかなり進んでいるようだが、竹富と合わせてどちらも自民の金と政治、癒着体質がもたらす不正がまかり通っていた事件だ。宮古前市長は役員だったゴルフ場を譲ってリベートを得たようだが、石垣市長選でのゴルフリゾート誘致と逆でも同じにおいがしてならない。2つの有罪事件の体質が石垣市長選にも影響を与えるのであれば、かなりいいタイミングなのだが、県警としては3年前から裏付け調査をしてのことらしい。

だが、直近の本島での名護市長選や南城市長選では、オール沖縄の候補者が落選していることが

らも、コロナ禍による経済衰退の影響、さらには石垣市の新庁舎が完成したばかりで、ゼネコンお礼選挙になるのではないかと勝手に想像してしまう。

沖縄の場合、観光業が急激に発展したことにより、公共事業やアメリカの基地に頼らずに豊かになってきていた。それによって保革一緒でのオール沖縄という先駆的な形で、復帰前のサンマデモクラシー以来、支配に対する不満を言えるようになった。しかし、コロナ禍により観光業は痛手を負い、暮らしに対する不安が広がっているとなれば、公共事業でゼネコンに頼らざるを得ないのが最近の状況で、オール沖縄の敗戦が続いている。

これらの状況分析から、現市長の再選4期目が見えてくるのだが、予想が外れてくれるのを期待していた。結果は、2,000票差で現市長に敗れ、オール沖縄は3連敗だから、那覇市長選に期待するしかないだろう。

石垣と宮古の自衛隊の新たな基地は、専守防衛の迎撃ミサイルが、突然の敵基地攻撃をも含むミサイルへと変貌しようとしている。となれば、専守防衛の拡大解釈が集団的自衛権と併せて、最初の標的となるリスクが何倍にもなってしまう。だが現地での理解は浅く、尖閣諸島のある沖縄、コロナ禍と相まって、ミサイル配備「賛成4割・反対3割」という電話世論調査になっているようだ。

しかし、沖縄本島の新聞やテレビ局のマスコミは、「不屈」と「命どう宝」を忘れまいと、日常的に報道している。内地の大半のマスコミと比べものにならないほど、真実を隠さず伝えようとする沖縄の心を持った良識あるジャーナリスト集団で、一時の経済不振で魂まで売ってしまわぬよう呼びかけてくれている。さらに、2月24日は、辺野古埋め立ての是非を問う県民投票が行われた日で、若者達その日を忘れまいと3年目もコンサートを開いている。

突然のコロナによる経済打撃は沖縄の暮らしも心も脅かしているが、辺野古新基地建設反対座り込みで学んだ「私たちはけっして諦めない。」の言葉が今でも輝いている。

石垣市長選で予想される主な争点

中山義隆氏	自衛隊配備	坂本芳行氏
陸自駐屯地開設の現行計画を容認	自衛隊配備	賛否を問う住民投票を実施
観光促進のため計画推進	ゴルフ場開発	環境に配慮し計画見直し
できる範囲で海洋調査などを実施	尖閣諸島問題	政治的な思惑のある調査などに反対

